



静岡大会

四季が育む、世界に誇る「食の日本」

生産者・自治体(地方都市)と首都圏を結びつけ

一次産業の未来に新たな視点の提唱

 未来まち計画機構

日本には、四季と風土が育んだ、世界に誇るべき素材が各地に存在します。しかし今、その多くが十分に評価されることなく、地域とともに埋もれつつあります。「一(ichi)」は、一次産業の価値をあらためて見つめ直し、素材そのものの力によって、地域の誇りと未来を呼び起こすプロジェクトです。本プロジェクトでは、食をはじめとする一次産業の素材を対象に、装飾や過度な調味に頼らず、素材本来の「おいしさ」、その土地に根ざした「価値」や「物語」、そして 次の時代へ残すべき地域資源であるか という視点で向き合います。

素材を知り、活かし、語り継ぐこと。

それは生産者だけでなく、地域全体の誇りとなり、やがて地方の力となって日本の未来を支えていきます。一次産業から、地域へ。地域から、日本へ。「一(ichi)」は、素材を起点に、新しい地方の可能性をひらきます。

開催趣旨

素材の価値を可視化し、一次産業を地域の力へと転換するために

一次産業を取り巻く環境は、担い手不足、価格競争、評価軸の不透明さなど、多くの構造的課題を抱えています。とりわけ地域に根ざした素材ほど、その価値が正しく伝わらず、市場や社会の中で埋もれてしまっているのが現状です。本プロジェクト「一(ichi)」は、食をはじめとする一次産業の素材に光を当て、その本質的な価値を「見える化」することを目的として開催されます。

評価の軸は、流通量や知名度ではありません。

素材そのものが持つ力、土地の自然や文化との関係性、そして地域が誇りとして次世代へ残すべき存在であるかどうか。

これらの観点から、調味や過度な加工に頼らず、素材の特性が最も伝わる形で向き合い、審査・発信を行います。

本企画を通じて、生産者、自治体、企業、そして生活者が「素材」を共通言語としてつながることで、

一次産業を単なる生産活動にとどめず、地域価値を創出する持続的な仕組みへと発展させていくことを目指します。

四季が育む、世界に誇る「食の日本 ●」

日本の素材甲子園の審査基準[食部門] 調味に頼らず、素材そのものの力を見極める。

日本の素材甲子園[食部門]では、素材そのものが持つ力を、正面から見極めます。調味に頼って完成させる味ではなく、自然が育んだ素材が本来備えているおいしさや特性。その本質が最も伝わるよう、調味は最小限とし、「蒸す・焼く・揚げる」などのシンプルな調理で查を行います。

四季や土地によって生まれる違いを、そのまま表現し、素材を「地域として誇れる存在か」という視点で捉えます。大会への参加を通じて、素材の価値があらためて言語化・可視化され、伝統の継承や新たな発信他地域への展開や認知向上へとつながっていきます。

審査の基本方針

調理・提供に関する方針

- 使用する調味は、素材の特性を確認するために厳選した塩のみとする
- 化学調味料および食品添加物は使用しない
- 調理は「蒸す・焼く・揚げる」などのシンプルな手法を基本とし、素材本来の味や香り、食感を引き出す
- 四季・気候・土地条件によって生まれる素材の違いが、明確に伝わる提供方法とする

評価の視点

- 素材そのものが持つおいしさと完成度を評価する
- その素材が、地域にとってどのような価値を持つかを評価する
- 将来にわたり残し、継承していくべき素材かどうかを評価する
- 地域が誇りとして発信できる、象徴的な素材であることを重視する

食材大国・生産大国の日本「食」の価値の再認識・再創出 一次産業の価値を、食で伝える。日本の素材甲子園

一次産業の価値は、数字や資料だけでは伝わりきりません。

土地の個性、気候、作り手の思想、積み重ねられた時間。それらすべてが凝縮され、最も直感的に伝わる形が「食」です。
日本の素材甲子園[食部門]は、一次産業の価値を「味わう体験」として可視化するプロジェクトです。



なぜ「食材」に絞るのか

加工する前に、評価したいものがある一次産業の価値は、食材に最も正直に現れる

食材は、一次産業の成果そのものです。加工や演出を重ねるほど、素材が本来持つ個性や背景は見えにくくなっていきます。

2026年 日本の素材甲子園[食部門]では、一次産業が生み出す素材そのものの力を正しく評価するため、あえて「食材」にフォーカスします。味・香り・食感に現れる違いこそが、地域の違いであり、生産の違いであり、一次産業の多様性そのものなのです。

調味料は一切使用しない!!

評価したいのは、味付けではなく素材そのものあえて足さないからこそ、伝わるものがある

調味料に頼らない理由

調味料は味を整えますが、同時に素材が持つ「土地性」や「生産背景」を覆い隠してしまうことがあります。日本の素材甲子園では、一次産業が生み出す素材そのものの力を評価するため、味付けは「塩」だけとします。余分な調味料は一切使用しません。

それは、生産者の仕事を『そのまま評価する』ためのルールです。

調理方法「蒸す・焼く・揚げるのみ」

食材の調理方法は蒸す・焼く・揚げるのみ



素材の味（地域や立地、環境、生産者）をダイレクトに五感で感じる

いずれも、素材の質の違いが最も表れやすい、極めてシンプルな方法です。

技術や演出ではなく、産地・環境・育て方の差、素材そのものの質の違いを際立たせることで、そのものの味を知ることができます。この調理法は、一次産業の力を見極めるための最適な方法です。

提供方法「塩だけで食べる」

調理された食材を厳選された「塩」のみで食す

厳選した5種類の塩から来場者は3種類の塩をチョイスし、シンプルに素材を楽しむ

塩は味を足すためではなく、素材の輪郭を浮かび上がらせるために用います。来場者は複数の塩から選び、同じ素材でも異なる表情を体験します。それにより、素材が持つ奥行きや完成度を、五感で実感することができます。

食べることは、一次産業を知ること食を通じて、一次産業を未来へつなぐ

「切る。火を通す。味わう。」

たったそれだけの行為の中に、日本各地の自然、文化、生産者の仕事が見えます。日本の素材甲子園[食部門]は、食を通じて一次産業の価値を再認識し、地域の未来へとつなげていくための取り組みです。

大会会場全体イベント構成



Main Program

■ メインエリア:素材体感ゾーン

- 全国47都道府県から選ばれた20地域が出展
- 旬の素材を塩のみで調理し「蒸す・焼く・揚げる」で味わう五感で食を観る

食材の調理方法は蒸す・焼く・揚げるのみ



■ 塩テイasting&体験コーナー

- 各地の塩を味比べできる「塩ラボ」/ 塩の種類・産地・製法の紹介展示
- 厳選した5種類の塩から来場者は3種類の塩をチョイスし、シンプルに素材を楽しむ

■ 生産者トーク&ワークショップ(メインステージ)

- 「生産者が語る“本当のおいしさ”」 ● 農家・漁師・料理人によるステージトーク

Stage Event



一(イチ)グルメ甲子園の広報強化のためにSNSを活用する方法として「Dream Gate」とタイアップします。

■ ステージイベント

- 「Dream Gate」との連携で全国の地域で活動するダンサー / 未来のスターがSNSで発信・インフルエンサーの活用を強化
- 地域食材の抽選会、ゆるキャラ登場 ● ふるさと納税返礼品が当たるイベント

KidsFesJapan



■ 子ども達のための職業体験&食育&キッズパーク

- 子どもが味覚を学べる「五感の食育ブース」 ● 親子で楽しめる体験

● 会場内では ■ 地域物産ブース ■ 地元物産ブース ■ 企業協賛ブース ■ 自治体ブースなど地域に関わる、また日本全国から集まる食に関するブースなど多くのブースを設置します。

● 会場全体にて地域のアイデンティティを具現化することにより広域なPR機会の創出を行いイベントに参加して頂くことで地方創成・まちづくりを推進させます。

月	開催内容	想定参加者数	地域・開催都道府県・会場
5月:29日(金)	交流会(コモンズコネクト)	約30名	静岡市内
5月:30日(土)・31日(日)	本祭	約20,000人	静岡/駿府城公園
6月:26日(金)	交流会(コモンズコネクト)	約30名	熊本市内
6月:27日(土)・28日(日)	本祭	約20,000人	熊本/花畑公園
7月:24日(金)	交流会(コモンズコネクト)	約30名	北海道
7月:25日(土)・26日(日)	本祭	約20,000人	北海道/真駒内セキスイハイムスタジアム 陸上競技場
8月:21日(金)	交流会(コモンズコネクト)	約30名	金沢市内
8月:22日(土)・23日(日)	本祭	約20,000人	石川/産業展示会館
9月:25日(金)	交流会(コモンズコネクト)	約30名	福島
9月:26日(土)・27日(日)	本祭	約20,000人	福島/開成山公園
10月:9日(金)	交流会(コモンズコネクト)	約30名	広島市内
10月:10日(土)・11日(日)	本祭	約20,000人	広島/ひろしまゲートパーク
11月:27日(金)	交流会(コモンズコネクト)	約30名	神戸市内
11月:28日(土)・29日(日)	本祭	約20,000人	兵庫/有馬富士公園
12月:18日(金)	交流会(コモンズコネクト)	約30名	高知市内
12月:19日(土)・20日(日)	本祭	約20,000人	高知/高知城丸の内緑地
2027年1月:23日(金)	交流会(コモンズコネクト)	約30名	東京都内
2027年1月:24日(土)・25日(日)	本祭	約40,000人	東京/夢の島公園陸上競技場
2027年3月:12日(金)	交流会(コモンズコネクト)	約30名	大阪
2027年3月:13日(土)・14日(日)	本祭	約40,000人	大阪大阪城公園太陽の広場

■名 称	全国 素材の饗宴「一(ichi)」日本の素材甲子園
■日 程	【予選大会】2026年5月～2027年2月(毎月1地域ずつ開催/全国9地域)※各月1開催 【決勝大会】2027年3月(大阪開催)
■開催時間各会場共通	11:00～17:00 (2日間開催)
■参加費	無料 (北陸地区 石川大会のみ有料予定:300円)
■販売価格 (出店者向けガイドライン)	フードメニュー:300円以上※価格は店舗により異なる(出店者が自由設定)
■主 催	未来まち計画機構(COMMON株式会社)
■特別協力	北國新聞社、日本の食まつり実行委員会、一般社団法人 WELLEX、株式会社ニホンノチカラ
■企画	COMMON株式会社、株式会社創縁舎※2020 SDGsアワード「SDGs推進ベスト企業賞」受賞、 一般社団法人 地域活性化プロジェクト縁GIN『第2回シェアリングエコノミー大賞』受賞
■後援(予定・申請中)	各開催自治体、関係省庁、静岡新聞社、熊本日日新聞社、北海道新聞社、 福島民報社、中国新聞社、神戸新聞社、高知新聞社他
■会場想定規模 (1会場あたり)飲食出店	20店舗/地域物産・商店ブース:20店程度/縁日・キッズパーク 10ブース程度ステージ:常設、終日プログラムあり
■主な企画・演出内容	ご当地キャラクター&ヒーローショー/地元キッズダンスステージ・伝統芸能ステージ SNS投稿キャンペーン・抽選会/ご当地食材投票&グランプリ決定戦 地元物産エリア・PRステージ
■集客想定平均	20,000人 / 開催(地方) / 都市部:40,000人以上(関東・近畿)
■広 告	広報連携各地地方テレビ・ラジオ・新聞タイアップ/行政広報誌 ふるさと納税ページ連携/SNS広告・キャンペーン展開(Instagram・X・LINE) プレスリリース配信 / 番組出演・取材誘致/会場内サインージ / スポンサーCM掲出
■問い合わせ先	未来まち計画機構(COMMON株式会社) MAIL:info@nippon-food-fes.com TEL:06-4397-7452 WEB:https://nippon-food-fes.com/

1



静岡 5月29日(金)
5月30日(土)31日(日)

交流会(コモンズコネクト) 約30名 静岡新聞社
本 祭 約20,000人 駿府城公園

2



熊本 6月26日(金)
6月27日(土)28日(日)

交流会(コモンズコネクト) 約30名 熊本日日新聞社
本 祭 約20,000人 花畑広場

3



北海道 7月24日(金)
7月25日(土)26日(日)

交流会(コモンズコネクト) 約30名 北海道新聞社・札幌テレビ
本 祭 約20,000人 真駒内セキスイハイムスタジアム

4



石川 8月21日(金)
8月22日(土)23日(日)

交流会(コモンズコネクト) 約30名 北陸新聞社・北陸朝日放送
本 祭 約20,000人 産業展示会館

5



福島 9月25日(金)
9月26日(土)27日(日)

交流会(コモンズコネクト) 約30名 福島民報社
本 祭 約20,000人 開成山公園

6



広島 10月9日(金)
10月10日(土)~12日(月)

交流会(コモンズコネクト) 約30名 中国新聞社
本 祭 約20,000人 広島ゲートパーク

7



兵庫 11月27日(金)
11月28日(土)29日(日)

交流会(コモンズコネクト) 約30名 神戸新聞社
本 祭 約20,000人 有馬富士公園

8



高知 12月18日(金)
12月19日(土)20日(日)

交流会(コモンズコネクト) 約30名 高知新聞社
本 祭 約20,000人 高知城 丸ノ内緑地

9



東京 2027年1月22日(金)
2027年1月23日(土)24日(日)

交流会(コモンズコネクト) 約30名 (東京都調整中)
本 祭 約40,000人 江東区夢の島競技場

10 **決勝**



大阪 2027年3月12日(金)
2027年3月13日(土)14日(日)

交流会(コモンズコネクト) 約30名 大阪府
本 祭(全国決勝) 約40,000人 大阪城公園(太陽の広場)

1 ~ **9** の順に地区大会が行われ
10 の大阪大会で決勝大会が行われます。

2026年5月の静岡県から最終2027年3月の大阪決勝大会まで
第一回大会となる本大会は北海道地区・東北地区・関東地区
北陸地区・東海地区・近畿地区・中国地区・四国地区・九州地区の
全9エリアで開催します。

Nippon Ingredients Grand Prix Nationwide

SHIZUOKA



静岡大会

協賛メニュー

静岡大会

静岡会場は、「素材の価値を、生活者の実感に変換できる場所」として、“一 (ichi)”の考え方を具体化する最初の会場のひとつです。

静岡は、農・水・畜が一体となった生産背景と、生活圏の近さがある静岡だからこそ、素材の違いを“体験として”共有することが可能になります。

「全国 素材の饗宴 – 日本の素材甲子園 ”一” (ichi) 」は、日本各地にある“まだ知られていない素材”と、その背景にある地域の営みを、体験を通じて知り、感じ、次につなげるための食のイベントです。

2026年5月から2027年3月にかけて、全国10か所で順次開催。

各会場では、全国から選ばれた約20地域が参加し、素材そのものの魅力を五感で体験できるプログラムを展開します。

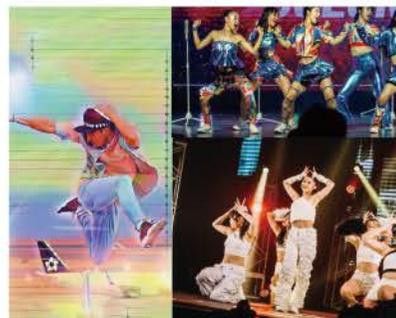
イベント概要	
正式名称	全国 素材の饗宴「一(ichi)」日本の素材甲子園
日程	2026年5月30日(土)・31日(日)
開催時間	11:00~17:00
開催場所	静岡 駿府城公園 (〒420-0855 静岡県静岡市葵区駿府城公園1番1号)
参加費	無料
主催	未来まち計画機構(COMMON株式会社) 特別協力:日本の食まつり実行委員会、一般社団法人 WELLEX、株式会社ニホンノチカラ
企画	COMMON株式会社、株式会社創縁舎 ※2020 SDGsアワード『SDGs推進ベスト企業賞』受賞、一般社団法人 地域活性化プロジェクト緑GIN「第2回シェアリングエコノミー大賞」受賞
後援(予定)	静岡県/静岡市/観光協会・商工会/農業・漁業・食品関連団体 教育機関・地域活動団体/静岡新聞・静岡放送
制作統括	一般社団法人UMF
会場想定規模	飲食出店:約20店舗/地域物産・商店ブース:約20ブース
(1会場あたり)	緑日・キッズパーク:約10ブース/ステージ:常設(終日プログラム)
企画内容	素材体感ゾーン/生産者トーク・ワークショップ/食育・キッズプログラム 地域PR・ステージイベント/来場者投票・グランプリ決定
想定来場者数	地方開催:平均 約20,000人



素材グランプリ



地元ブース



メインステージ



キッズスペース

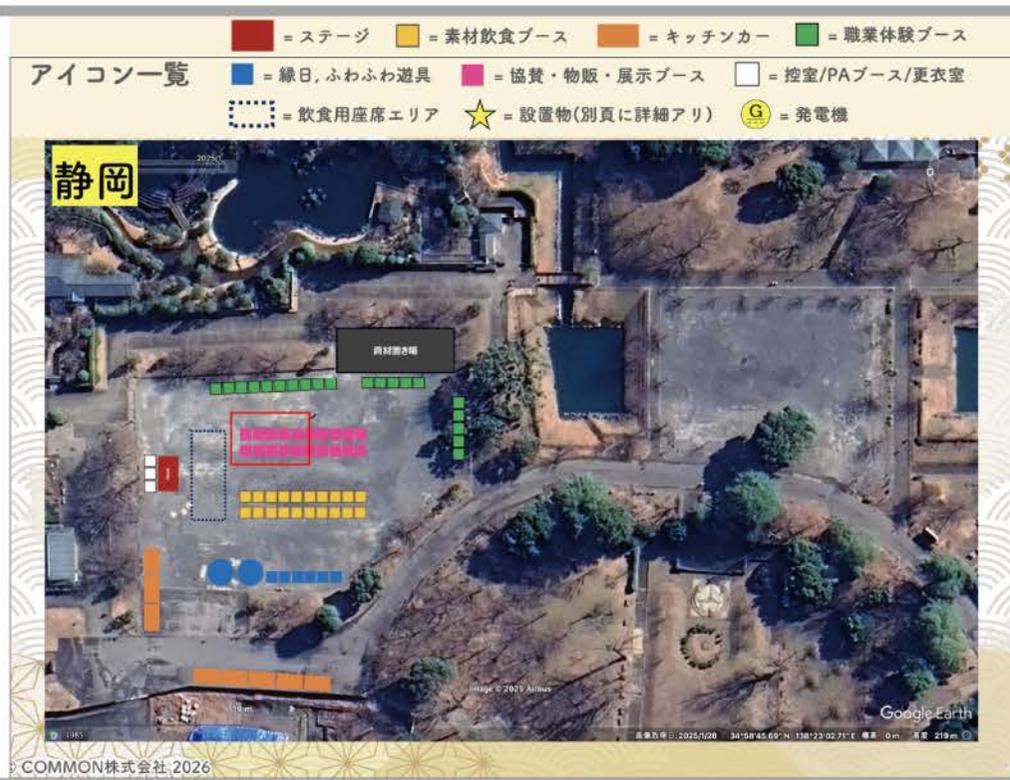


静岡

5月29日(金)

5月30日(土) 31日(日)

- 素材飲食ブース : 全 20 ブース
- 協賛ブースゾーン (赤枠部分)
- 職業体験ゾーン : 10~20 ブース
- 縁日ふあふあ遊具ブース
- ★ 入場料 無料



大会パンフレット、機構案内冊子配布



紙媒体（パンフレット・冊子） ※トータル初年度 60 万部配布予定

各地大会ごとの当日に来場者に配られるパンフレット、また前日の自治体と企業向け公民連携イベントにて配られる冊子、また開催地以外でも開催される「未来まち計画機構」が主催する全てのイベントにてパンフレットや冊子を配布致します。BtoB市場、各自治体に向けたtoGマーケットへダイレクトに届けられるツールとして、またより地方創成の文脈に相応しい社会性の高い記事・広告内容にて展開します。

PRタイムズ・各地新聞社・地方テレビ局・各自治体等の各メディアからの発進

本大会は、全国規模の広報ネットワークを活用した強力な情報発信を行います。PR TIMESをはじめとする主要プレスリリース配信媒体に加え、開催地自治体の公式広報誌・Webサイト、各地域の新聞社・メディアと連携し、大会情報や出場素材、協賛企業の取り組みを多角的に発信します。全国へ向けた継続的な露出により、企業・地域双方のブランド価値向上を実現します。

WEB媒体：公民連携プラットフォーム、公共と民間を繋ぐリアルハブ展開



都道府県別、市区町村別公民連携プラットフォーム構築

本大会のオフィシャルWebサイトにて各大会毎に特設サイトを展開します。大会サイト意外にも当機構が展開する民間主体による公民連携のプラットフォームとして各都道府県ごとにWebプラットフォームにて大会に関する情報を掲載致します。社会課題の解決に向けた取り組みとして大会に関係する皆様の取り組みとして発進していきます。

未来まち計画機構 H.P. <https://miraimachi.org>

SNSを活用した投稿を行い、積極的情報を拡散



運営と各自治体からSNS発進
日本最大級全国KPOPダンスコンテストSNSも活用しさらなる拡散を行います。
グルメ甲子園SNS(X,FB,Instagram)
KPOPダンスコンテスト「Dream Gate」SNS

公民連携フォーラム開催：価値あるリアル交流の場の提供と機会創出



フォーラム・イベント（トータル初年度 80 回開催予定）

年1回の全国規模「公民連携フォーラム」をはじめ、まちづくり・観光・防災・健康・産業など多様なテーマで各地の自治体と連携したフォーラムやシンポジウムを開催。出展・協賛企業は、全国の自治体担当者や企業と直接つながり、新たな事業やプロジェクト創出につながる機会を得ることができます。さらに、自治体の公民連携プラットフォーム構築や事務局運営、伴走支援まで一貫してサポートし、継続的な共創を実現します。

行政の協力により広報誌、学校にチラシを配布

各会場 納品予定数 ポスター/1,000枚
チラシ/100,000枚

教育委員会からチラシ配布 小学校/中学校/高校(各生徒数)
各行政の広報誌や施設内掲示物他

協賛種	協賛金額 (会場)	ブランド (社名) 露出 (会場)		HP(各会場ページ)	会場ブース
		ロゴマーク+社名 (小)	ロゴマーク+社名 (小)		
松	100万円	ロゴマーク+社名 (小)	ロゴマーク+社名 (小)	ロゴマーク+社名 (大)	1コマ
竹	50万円	テキストのみ	テキストのみ	ロゴマーク+社名 (大)	1コマ
梅	30万円			テキスト	1コマ

1. ブランド(社名)露出 (会場内)

会場協賛ボードへのロゴ掲載

インフォメーション看板へのロゴ掲載 ※協賛種別サイズ
プログラムパンフレット



2. 公式メディアでの露出

公式WEBサイト: 協賛一覧/ロゴ掲載掲載

SNS: 協賛企業紹介投稿 ※協賛種別による投稿回数違い

プレスリリース: 企業名掲載 ※上位スポンサー優先



3. 会場ブース展開(全スポンサー共通)

W3,600 × D2,700

フリースペースとしてブース前2mまで

基本備品: 長机 600*1800×1台 / パイプ椅子×2脚 / 出店社名看板(W900*H250)
電源(1.5kw) / テント幕×三方 / 貴社名看板

